

特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド



Challenge Life!

since 1998

「ハート・オブ・ゴールド」設立にあたって 代表理事 有森 裕子 1998.10

長期間にわたり内戦が続いたカンボジアは、第二次大戦後の世界で、国民が最も大きな悲劇を味わった国です。

1975年から始まったポル・ポト政権の大虐殺では、200万人が命を失ったと言われていました。一方、繰り返される戦闘の結果、世界最悪の地雷汚染国となってしまいました。4万人もの人たちが手足を失い、今もなお、人口とほぼ同数の1000万個の地雷が埋められたままで、毎月数百人の死者、負傷者が出ています。

このカンボジアのアンコール遺跡周辺を舞台に、1996年から「アンコール ワット国際ハーフマラソン」が開催されるようになりました。参加者の出場申し込み金は、対地雷で手や足を失った犠牲者や子供たちに義足を贈るために寄付されます。

私も第一回の大会から参加する機会を得て、お手伝いをさせていただいてきましたが、この大会を継続・発展させていくには、そこに携わる人たちの地道な努力と情熱が必要であることを痛感しました。

私自身、みなさんに応援され、支えられてきた人間として、「走ることを通して何か社会の役に立てる活動がしたい」と思ってきました。これまで、カンボジアでの大会やその他国内外のチャリティレース、イベント等、与えられた機会を生かすことに努めてきましたが、私一人でもできる事には限りがあります。

今回、スポーツNGO「ハート・オブ・ゴールド」を設立し

たのは、私自身がより主体的に関わっていくことはもちろんのこと、個人の枠を超え、しっかりとした組織で多くの人たちとともに、息長く国際貢献、社会貢献を続けていくことが重要だと考えたからです。

このNGOでは、国内外の被災地や紛争地における生活自立の支援を行うと同時に、苦境に立たされている人々、とりわけ子供たちの心のケアに力を注いでいきたいと考えています。子どものころ、自信をもてるものが何一つなかった私は「自分にできること、がんばってやれること」を必死で探し回りました。そして「走ること」に出会い「走ることをがんばることで、生きていく希望と勇気をつかみました。

人が人のためにできることは、そう多くはありません。また、ものがどれだけそろったところで、そこに生きる一人ひとりが、生きていく強さを自らの中に持たない限り、幸せを実感することは難しいでしょう。

私たちの活動の最もおおきな目的は、苦境に立っている人々、子どもたちが自らのなかに希望や勇気を持つためのきっかけづくりにあります。多くの方がランニング・スポーツとふれあう機会を作り出すことで、希望と勇気[ハート・オブ・ゴールド]の共有を進めていきたいと考えています。みなさんのご参加、ご支援を心よりお願いいたします。



設立

1998年10月10日

理念

スポーツを通じて、国境・人種・ハンディキャップを超えた「希望と勇気」の共有を実現する。

目的

ランナーをはじめとするスポーツ愛好者の汗とハートを結集し、被災地や紛争地における生活自立支援に協力するとともに、苦境に立ち向かう人々、子ども達が生きていく勇気と希望を自らの中を持つための機会を創造していくことで心のケアに貢献する。

役員

代表理事 有森裕子
(マラソンランナー、バルセロナ五輪銀メダル、五輪4大会連続出場、ニュージーランド)

副代表 ローレン・モラー
(マラソンランナー、バルセロナ五輪銅メダル、五輪4大会連続出場、ニュージーランド)

理事長 萩原 隆
(日本医師ジョギング連盟事務局長)

ハート・オブ・ゴールドの活動へのご支援・ご参加をお待ちしております

会員になる

個人会員：年会費 3,000円 法人会員：年会費 30,000円
*会員の皆様には、ニュースレター等をお送りします。

寄付をする

活動全体への寄付に加え、各活動を指定しての寄付も承ります。

ハート・ペアレントになる
里親：3,500円/月

その他、ボランティアや、グッズを購入する等

*詳細はホームページをご覧ください、事務局までご連絡下さい。

●郵便局：01300-3-11-24 加入者名：ハート・オブ・ゴールド
*郵便局からのお振込みは、『払込取扱票』の通信欄に振込み目的(会費、寄附、ハート・ペアレント等)を明記して下さい。

●銀行振込：三菱東京UFJ銀行 岡山駅前支店
(普通)093 12 14 口座名：ハート・オブ・ゴールド
*銀行からのお振込みは、ご連絡先を確認出来ません。お手数ですが、住所、氏名、連絡先、振込み目的を、事務局まで必ずご連絡下さい。

年会費や寄付等は、郵便局、又は銀行よりお振込み下さい。
ホームページ上からイーバンクによりお振込み頂くことも出来ます。

ハート・オブ・ゴールド本部事務局 〒701-1213 岡山市西辛川972-2
Tel/Fax：086-284-9700 E-mail：hginfo@hofg.org URL：www.hofg.org

近年、国際協力の分野において、スポーツの位置付けは大きく変化してきました。記録を競い合ったり、個人の健康増進のためだけではなく、スポーツを通して得られる喜び、自信、信頼、統率力、身体で感じる痛み、考える力等を通して、平和な社会を構築するための人間教育や指導者育成を行う有効なツールとして考えられるようになってきたのです。

ハート・オブ・ゴールドは、1996年から開催している『アンコールワット国際ハーフマラソン』による義手・義足支援をきっかけに、主にカ

ンボジアで活動してきました。マラソンに限らず、各種競技や武道等を通して指導者育成を行い、今では、カンボジアの全ての子ども達の健やかな成長を願って、小学校体育科指導書の作成を支援しています。加えて、生活自立支援や国際交流活動を行うことで、お互いの存在を感じ、理解し合うことを目指しています。

今も世界では、政治的、宗教的、文化的な衝突が続いています。各々がもつ悲惨な記憶と向き合いつつ、全ての人々の心の中に「希望と勇気」を分かち合うための活動が続けていきたいと思っています。

特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド

www.hofg.org

since 1998



アンコールワット国際ハーフマラソン

世界遺産であるアンコール遺跡内を駆け巡るカンボジア唯一の国際大会です。この大会の参加費はチャリティ基金として、義手・義足支援や障害者スポーツ復興等のために使われます。性別、年齢、障害の有無を問わず、人々に「希望と勇気」を与えるとともに、世界各地から参加したランナー、ウォーカー、ボランティア達は、世界に向けて「平和・共生」のメッセージを発信し続けています。

(シェムリアップ/1996年～)

ハート・ペアレント(里親制度)

HIV/AIDSで

親を失った孤児や、貧困のため行き場を失った子ども達に対して生活・教育支援を行っています。日本から里親を募って自立までの経済的支援と交流を深めています。職業訓練センターを含むチャイルド・ケア・センターの新設も予定しており、子ども達の成長がますます楽しみです。

(シェムリアップ/2001年～)

青少年・指導者育成スポーツ祭



元オリンピック選手や専門家、多数の学生やボランティアが参加して、各種競技(サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン)、体操、柔道等を通して現地指導者を育成し、またスポーツ祭の開催によって小中学生への指導を実践します。

加えてUNFPAやその他のNGO団体と連携して、HIV/AIDS予防や地雷回避の教育、マーチングバンド発表の場としても利用しています。

(コンボンチュナム他/2001年～2005年)

小学校体育科指導書作成支援

(JICA草の根技術協力事業)

青少年・指導者育成スポーツ祭の実績により、体育教育の重要性を感じたカンボジア政府の要請を受けて取り組んでいます。日本とカンボジア政府、地方自治体、大学、NGOが協力して1つの事業を展開する、新しい取組みとして大変注目されています。

体育教育が広まることで、未来を担う多くの子ども達が健やかに成長し、カンボジアを自分達で元気にするよう願っています。

(地方選定 8州のモデル25校/2006年～)



日本語教育

カンボジア

では小学校を卒業しても働く場所が非常に少ないため、公立小学校内に教室を建設して日本語の教育を行っています。外国語を話せれば、ホテルマンやガイド等、就職の可能性が大きく広がります。子ども達が、いつか一家の柱となって家族を支えてくれることを願っています。

(シェムリアップ/2000年～)

その他の活動

- HIV/AIDS予防教育 ●国際理解教育活動 ●障害者支援 ●東ティモール教育支援 ●野菜栽培技術指導 ●スタディツアー ●各種講演会

Anyone can have gold, simply by giving.

有森代表と私は、カンボジアやモンゴルを訪問し、義足を求める人達や、生まれながらの権利を奪われたホームレスの子ども達を目にしました。この世界は紛れもなく困難に直面しています。

実際に世界の問題を解決できないにしても、一人一人が人間として行動すれば、少しは役に立つことができるはずで。

誰でも、心の金メダルを得ることはできます。それを求めようとする心さえあれば。どうか、皆さんもこのNPOに参加して下さい。



ハート・オブ・ゴールド副代表 ローレン・モラー

できる人が、できることを、できる限り続けよう!